

ご使用前に準備いただくこと

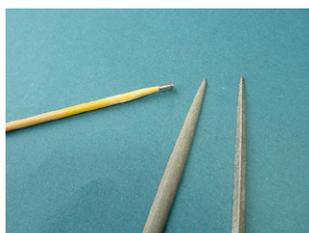
① 使用する前に

①-1



スリットは、ミクロン単位で寸法を合わせています。製品の状態では、切削の"荒れ"がほんの少し有るので、多少きつめですが、組み上げてツールと擦れる事で、すぐにスムーズになります。希にヤスリで削る等してしまう方がいますが、後にユルユルになって使えなくなってしまいます。**絶対にしてはいけません。**

①-2



ベアリング代わりの、ステンレスパイプは、切り離しのササクレがあります。なので、使用する前に、軽く整形する必要があります。竹串に刺して縁の外側を軽くヤスリで、あたってください。内部は、▲もしくは、■のヤスリで軽くあたってください。/処理せずに、いきなり使用すると、ササクレのために、取れなくなる可能性もあります。

①-3



ツールから、"歯"の部分切り離す前に、ゲートの部分に、油性のマジックで、印をつけておくと、切り離してからの処理がスムーズです。切り離したら①-2と同様に、切り口をヤスリで軽く整形してください。

② ツールの組み立て

1/32の大径だとして、画像の様な組み合わせの順になります。

各ツールを重ねる際に、竹串を使用すると簡単に作業できます。

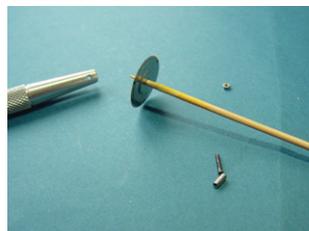
同様にスリットに差し入れる際も、竹串を使用すると簡単に組み立てられます。

1/32の大径の仕上がりです。

②-1



②-2



②-3



②-4



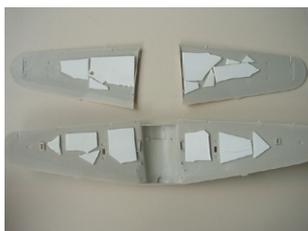
③ 胴体の合わせを補強する

③-1



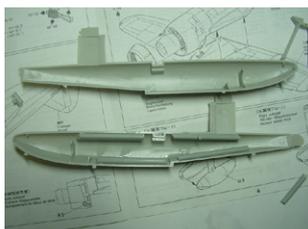
画像は、1/48の強風を例としています。
どうしても、力を入れるので、胴体の合わせを補強しておきます。変わったことではなく、胴体の接着線の内側に沿って、ランナーの残りを瞬間接着剤を使用して接着します。合わせの邪魔にならないよう、仮組してから行います。

③-2



③-1と同様の理由から、主翼の内面を補強します。プラ板のくずを、瞬間接着剤を使用して隙間なく接着します。これも、上下の合わせの邪魔にならないように配慮します。

③-3



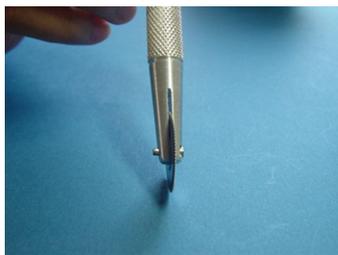
フロートも胴体と同様に補強します。

各スケールのサイズ表示は目安です。使用するアイテムに合わせて、
標記にとらわれずにアレンジしてみましょう！

形状によって異なる打ち方の基本

打ち方3つのポイント

前方から見た角度。打つ面に対して、垂直にたててください。



打つ面に対して、倒すと、それでキットを傷つけたり、怪我の元となります。基本に沿って、垂直にあててください。



打ち込む場合は、基本的に、下に充て布をしてください。そのままだと、キットの表面に擦れ、傷をつける要因となります。



① 直線引き



パネルラインに沿って、ラインを左に観て、手前から前方へ押し出す様にします。必要以上に力を入れる必要はありません、ラインがよれてしまいます。手の角度は、写真の状態が標準です。※右利きの方を想定、左利きの方は逆になります。

② 曲線引き



カーブに沿わせるときは、手を立てると、小回りが利きます。

③ 胴体等、立体物



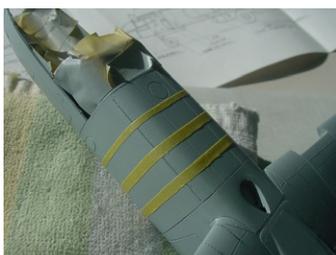
胴体のような立体物の断面方向に打つ場合は、大きい方の歯を使用してください。小さい方だと、小回りが利く分、それたりする可能性があります。コツは前方に押し出そうとせず、手間に押し下げる気持ちで、前方に向けて行くことです。

④ 際の打ち方



胴体については、径刃の大きい歯を使用します。小さいと、小回りが利く分それる可能性があります。際については、歯の入らない箇所は、けがき針、ニードルで点打ちします。

⑤ 丸い断面



胴体のような丸い断面のものは、下書きも困難ですので、マスキングテープを細切りして、貼り付けます。右利きだとして、ラインの左にテープを貼りつけて、右に歯を沿わせていきます。



同様です。胴体の手法、際の手法の延長です。

⑥ アクセスポネル



アクセスポネルは、点打ちではなく、○打ちで、ツール使用して打ち込み。メリハリをつけます。

不要なキットで、なんどか練習するとコツがつかめます！

ミスしてしまったら



たとえば、

1/48 の零戦です。見本に主翼中央部にリベットを打ってみました。リベットは、サーフェーサーを吹いてから、打ちます。矢印の部分が外側にそれてしまいました。

① ペーパーをかける

400番の耐水性サンドペーパーに、あてゴムをして、水を付けないで、ミスした部分にペーパーがけをします。

② それたリベットが浅いとき

それたリベットが浅ければ、そのまま作業続行で、普通に塗装していただいてもかまいません。ペーパーがけをした、カスが穴に詰まって、よく観なければ、分かりません。

③ それたリベットが深いとき

それたリベットが、深く入っていたら"その1"と同様に、ペーパーがけしてから、周囲をマスキングし、ピンポイントで軽くサーフェーサーを吹きます。乾燥後は、テープの段差に軽く、ペーパーをあてた後、リベット打ち再開です。